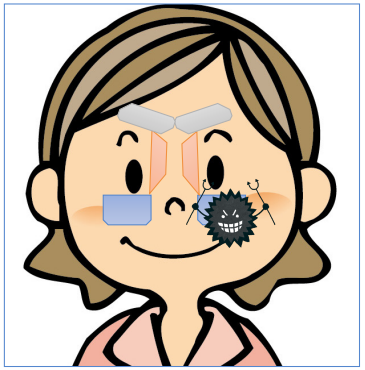
小児の副鼻腔炎
(ちくのう症)

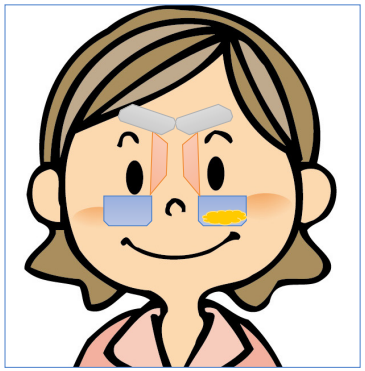
り耳鼻咽喉科

副鼻腔炎（ちくのう症）とは？

風邪などの原因により鼻の周りにある空洞（副鼻腔）
に炎症が起こり、膿（うみ）が貯まります

膿が貯まるほどひどくない副鼻腔炎もあります





急性副鼻腔炎
症状が出て4週間以内
慢性副鼻腔炎
1～3ヶ月以上にわたって
症状が続きます

り耳鼻咽喉科

小児の急性副鼻腔炎

り耳鼻咽喉科

小児の急性副鼻腔炎の症状は

急性は、発症から4週間以内です

膿のような鼻汁が出る

鼻がつまる
口呼吸
いびき

後鼻漏による咳
鼻汁がのどに流れて痰がからんだ咳が出ます

頭痛、おでこや目の回り、頬の痛みを生じることもあります

子どものちくのう症の特徴は・・・

- アデノイド肥大（鼻の奥にある扁桃）やアレルギー性鼻炎がある場合は治りにくいことがあります
- 子どもは風邪を引くたびに、再発をくり返します

り耳鼻咽喉科

小児の急性副鼻腔炎の抗菌薬の種類と用量は、重症度別に決定します

鼻内所見

鼻汁・
後鼻漏の量

臨床症状

鼻汁
不機嫌
痰が絡んだ咳

重症度スコア

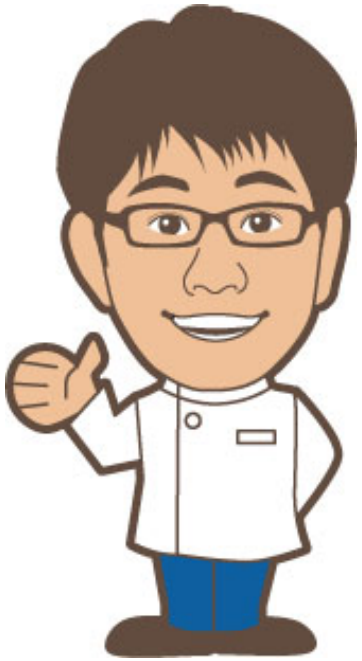
→ 軽症
中等症
重症

り耳鼻咽喉科

小児の副鼻腔炎の検査は

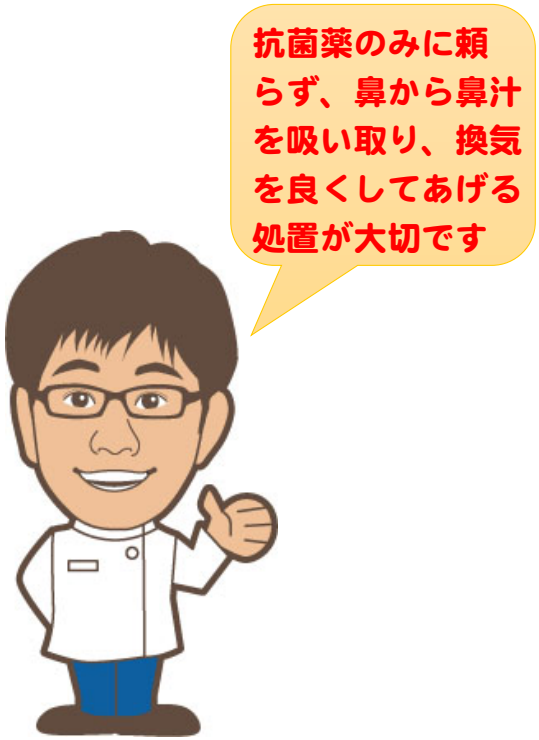
特に治りにくい子どもは、
検査をしっかりした上で
治療方針を立てる必要があります

問診	膿（うみ）のような鼻汁、鼻づまり、後鼻漏（鼻汁がのどの奥にたれ込む）ことによる痰がからんだ咳、いびき、口呼吸など
鼻、咽頭の視診	後鼻漏の有無で診断できます 鼻の奥まで吸引することで、ある程度診断できます
内視鏡検査	鼻の奥の副鼻腔自然口やアデノイドの状態を見ます
鼻汁好酸球検査	アレルギー性鼻炎合併が疑われる場合に行います
鼻汁培養検査	治りが悪いときや耐性菌が疑われるときに行います
レントゲン	過剰診断になりやすく、全例に行うことはしません



り耳鼻咽喉科

小児の急性副鼻腔炎の治療は、抗菌薬も大切ですが、鼻処置とネブライザーも大切です



薬物治療

- 抗菌薬
- 粘液溶解薬
- 抗アレルギー薬
- 点鼻薬

鼻処置
ネブライザー

- 鼻汁を吸引し、鼻腔を広げます
- ネブライザーでミスト状の薬を鼻に吹き付けて治療します

急性副鼻腔炎が治りにくいときは・・・

鼻かみがうまくできない小児では鼻汁が停滞しやすく、慢性化しやすい原因になります

アデノイド肥大
アレルギー性鼻炎

治りにくいときは、チェックする必要がありますので検査を受けましょう

耐性菌（薬が効きにくい菌）

下記の条件をいずれか満たした場合は、
耐性菌の可能性があるので適切な治療が必要です

2才未満
1か月以内に抗菌薬を飲んだが再発した
保育園に通っている
反復する上気道感染の既往

かぜを予防しましょう

うがい
手洗い
マスク着用

鼻汁が出てるときは

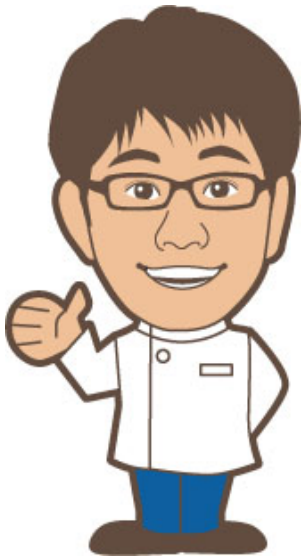
鼻をすすりはやめさせて下さい
鼻をかませて下さい
　　ゆっくり、やさしく、片方ずつ
乳幼児で鼻がかめないときは、お母さんが鼻吸引してあげて下さい

り耳鼻咽喉科

小児の慢性副鼻腔炎

小児の慢性副鼻腔炎の特徴は・・・

慢性は、1～3か月以上にわたって
鼻づまり、粘っこい膿のような
鼻汁、後鼻漏に伴う咳が続きます



子どもの
長引く湿性咳嗽の
第1原因です

粘っこい
膿のような鼻汁
が出ます

症状が、良くなったり、悪くなったりをくり返します

アレルギー性鼻炎、
集団保育児は
治りが遅いです

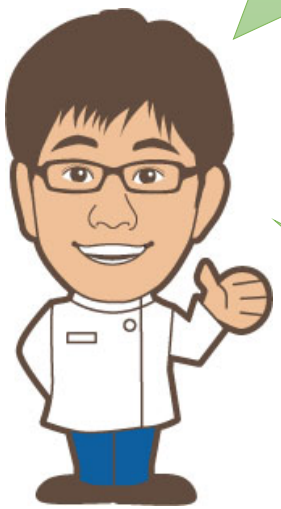
鼻茸などが少ないです

治りにくいときは
アデノイド肥大を確認
3か月は保存治療します

り耳鼻咽喉科

小児の慢性副鼻腔炎の標準治療は、マクロライド療法です

マクロライド療法は、
2～4週間で効果が出始めます
3ヵ月くらいかかります



風邪を引いて症状が悪化した場合は、マクロライドから別の抗菌薬に変更する必要があります

薬物治療

- マクロライド療法
- 粘液溶解薬（ムコダイン）
- 点鼻薬

鼻処置
ネブライザー

- 鼻汁を吸引し、鼻腔を広げます
- ネブライザーでミスト状の薬を鼻に吹き付けて治療します

り耳鼻咽喉科